

漁港は
魚の保育園
http://www.gyokou.or.jp/

漁港漁場月報

平成26年11月15日 発行
毎月 1回15日発行
編集兼
発行人 公益社団法人 全国漁港漁場協会
田中潤児
東京都港区赤坂1-9-13三會堂ビル8階
電話 東京(5114)9981
定価 1部 70円
(会員の購読料は会費の中に含む)

第65回全国漁港漁場大会

東京都で開催

全国から1300人が参加



第65回 全国漁港漁場大会

第65回全国漁港漁場大会
主催者挨拶

第65回全国漁港漁場大会(主催)Ⅱ(公社)全国漁港漁場協会、後援Ⅱ東京都、東京都漁業協同組合連合会、東京都漁港漁場協会、協賛Ⅱ全国漁港海岸防災協会)が、10月23日、東京都港区のメルパルクホールにおいて、江藤拓衆議院農林水産委員長、山田俊男参議院農林水産委員長、衛藤征士郎衆議院議員(漁港漁場漁村整備促進

議員連盟会長)、本川一善水産庁長官、白須敏朗(一社)大日本水産会会長はじめ多くの来賓と全国から漁港漁場漁村関係者約1300人の参加を得て盛大に開催された。

今大会では、燃油価格の高騰、消費者の魚離れ、魚価の低迷なども加わり、水産業、漁村を取り巻く環境が一段と厳しくなっているなか、水産資源回復対策、漁港等の高

度衛生管理対策、漁港・漁村の防災・減災対策や施設の長寿命化対策などの必要性を踏まえ、漁港・漁場・漁村・海岸の整備の促進に係る諸施策の積極的な推進が図られるよう、全国の漁港漁場関係者の総意をもって政府、国会等に対する提言を採択し、その実現のため要請行動を行うことを決議した。

大会は、午後1時に開



議長 藤本昭夫 大分県漁港漁場協会会長

会し、はじめに田中潤児全国漁港漁場協会会長が主催者挨拶を行った。来賓挨拶に移り、最初に本川長官が公務のため欠席となった中川郁子農林水産大臣政務官の祝辞を披露した。次に江藤拓衆議院農林水産委員長、山田俊男参議院農林水産委員長、衛藤征士郎衆議院議長、白須敏朗大日本水産会会長がそれぞれ祝辞を述べた。

祝辞の後、出席した来賓の国会議員の紹介を行うとともに安倍晋三自由民主党総裁をはじめ多くの方から祝電が届けられたことを紹介した。

議事に入り、議長の出発を待たず、議長に藤本昭夫(一社)大分県漁港漁場協会会長(姫島村長)を選出した。藤本議長は進行で議案の審議を行い、議案「漁港・漁場・漁村・海岸整備の促進に関する件」について、中田勝久兵衛東海漁港漁場協

会会長(南あわじ市長)が提案理由を説明した。続いて議案に関連した

全国から多くの関係者が集結した

議長は、はじめに田中潤児全国漁港漁場協会会長が主催者挨拶を行った。来賓挨拶に移り、最初に本川長官が公務のため欠席となった中川郁子農林水産大臣政務官の祝辞を披露した。次に江藤拓衆議院農林水産委員長、山田俊男参議院農林水産委員長、衛藤征士郎衆議院議長、白須敏朗大日本水産会会長がそれぞれ祝辞を述べた。

祝辞の後、出席した来賓の国会議員の紹介を行うとともに安倍晋三自由民主党総裁をはじめ多くの方から祝電が届けられたことを紹介した。

議事に入り、議長の出発を待たず、議長に藤本昭夫(一社)大分県漁港漁場協会会長(姫島村長)を選出した。藤本議長は進行で議案の審議を行い、議案「漁港・漁場・漁村・海岸整備の促進に関する件」について、中田勝久兵衛東海漁港漁場協

会会長(南あわじ市長)が提案理由を説明した。続いて議案に関連した

採択された要請をもとに全国漁港漁場協会、各都道府県漁港漁場協会、全国漁業協同組合連合会長の連名による提言書を作成し、政府、国会その他各方面に働きかけ、提言事項の実現に努めることとして議事を終了した。

このほか、会場では、漁船海難遺児育英募金が行われたほか、(一社)漁港漁場新技術研究会会員の新しい技術等を紹介する展示が行われた。



盛合敏子 岩手県漁協女性部連絡協議会会長

盛合敏子(一社)岩手県漁協女性部連絡協議会会長は、提言書に署名した。また、会場では、漁船海難遺児育英募金が行われたほか、(一社)漁港漁場新技術研究会会員の新しい技術等を紹介する展示が行われた。

また、地域自らが考え、漁業収入の向上や漁業コストの削減に努めるとともに、水産物、豊かな自然、漁村文化など様々な地域資源を活用した漁村の活性化に取り組んでおります。

さらに、東日本大震災の被災地においては、道半ばにある復旧・復興の加速化と水産業の力強い再生に力を結集して取り組むとともに、南海トラフを始めとした大規模地震津波やこれまで経験したことのない強大な台風などに備えて、防災・減災対策と漁港の長寿化化に取り組み、災害に強い漁業地域の実現を目指しています。

我々は、このような取り組みの実践により、豊かな海の自然環境と魅力ある水産業を次世代に伝え、漁村を豊かで安心して暮らせる場とするため、課せられた役割を果たしていきます。

提言

- 一 水産物の消費拡大と輸出促進に資する漁港の高度衛生管理対策
- 一 漁場整備による豊かな生態系と水産資源の回復対策
- 一 災害に強い漁港・漁村づくりのための防災・減災対策、長寿命化対策
- 一 水産業・漁村の活性化を目指した多面的機能発揮対策、産地水産業強化対策

平成二十六年十月二十三日

第六十五回全国漁港漁場大会

主催者挨拶

(公社)全国漁港漁場協会会長

田中 潤児



第65回全国漁港漁場大会の開催にあたり、ご挨拶申し上げます。特に、公務が多忙のなか、江藤拓衆議院農林水産委員長、

また、本大会の開催にあたり、東京都、東京都漁業協同組合連合会及び東京都漁港漁場協会の後援を頂きました。心より御礼申し上げます。

我が国の水産業、漁村は、安全・安心で良質な水産物を安定的に提供するだけでなく、沿岸域の環境の保全、国境監視など重要な役割を果たしてまいります。しかしながら、水産業を取り巻く環境は、水産資源状況の悪化、漁業の担い手の減少・高齢化に、燃料価格の高騰、消費者の魚離れ、魚価

の低迷なども加わり、一段と厳しくなっております。更に、近い将来発生が懸念されている大規模地震・津波やこれまで経験したことのない台風、集中豪雨などに備えて、災害に強い地域づくりが急がれております。

こうしたなか、日本の豊かな海の自然環境を守り、国民の皆さんに安全・安心な水産物を安定的に提供していくためには、我々関係者が一致団結してこのような状況を克服しなければなりません。このためには他の水産

事でもあります。今日ここに集まりの皆様は、日頃より水産業、漁村の振興のために大変ご努力されておられます。本大会で議論される内容の重要性を広く国民の皆さんに訴えたいと思っております。

また、本日御列席の皆様をはじめ、日頃より漁港・漁場・漁村の整備の推進に格段の御尽力をいただいております関係各位に対し、衆議院農林水産委員会を代表して、深情勢は、燃油価格の高騰、計画」に基づき、各般の施策が展開されております。

また、「農林水産業・地域の活力創造プラン」では、かつては世界一を誇った日本の水産業の復活が謳われ、浜の活性化や資源管理

祝辞

農林水産大臣政務官

中川 郁子

(代読) 水産庁長官 本川一善

本日ここに、全国漁港漁場大会が開催されるに当たり、一言御挨拶を申し上げます。

本大会は、昭和24年の第1回大会以来、本年で65回を迎えることとなりました。この間、関係者の皆様におかれましては、「水産日本の皆様におかれましては、漁港・漁場・漁村の整備促進はもとより、漁

高い持続可能な漁業・養殖業の展開及び活力ある水産業・漁村の実現を図ってまいれる所存です。

具体的には、所得向上を目指す「浜の活力再生プラン」の策定を通じた浜の活性化や、資源管理の充実が図られるよう産基盤整備をはじめ、必要な水産予算の確保と制度の充実が図られるよう努力してまいれる所存です。

また、東日本大震災からの復旧・復興につきま



また、東日本大震災からの復旧・復興につきま

また、東日本大震災からの復旧・復興につきま

また、東日本大震災からの復旧・復興につきま

また、東日本大震災からの復旧・復興につきま

また、東日本大震災からの復旧・復興につきま

また、東日本大震災からの復旧・復興につきま

また、東日本大震災からの復旧・復興につきま

祝辞

参議院農林水産委員長

山田 俊男

本日ここに、第65回全国漁港漁場大会が開催されるに当たり、参議院農林水産委員会を代表して、一言ご挨拶申し上げます。

まず、水産業及び漁村の振興にご尽力を頂いておられます皆様をはじめ、関係者の方々に対し、衷

心より敬意を表しますと

もたらしていただきます。

我が国は豊富な魚介類に恵まれ、古来より多彩な魚食文化を育んでまいりました。将来にわたる水産物の安定供給を確保するためには、引き続き漁業経営を圧迫し、漁業就業者の減少・高齢化と相まって、水産業の衰退の必要があり、水産資源の回復策を講ずるとともに、漁業者の所得向上や経営安定を図る施策を強力に推進していかねばなりません。

昨年度から

は、漁業・漁



は、漁業・漁

は、漁業・漁

は、漁業・漁

は、漁業・漁

祝辞

衆議院農林水産委員長

江藤 拓

本日ここに「第65回全国漁港漁場大会」が盛大に開催されますことを心からお慶び申し上げます。

御承知のとおり、我が国の水産業・漁村は、新鮮で安全な水産物を安定的に供給する役割だけでなく、豊かな自然環境の形成、海の安全・安心の提供など、国民の豊かな生活を支える多面的な機能を発揮しております。

しかしながら、我が国の水産業・漁村をめぐる情勢は、燃油価格の高騰、計画」に基づき、各般の施策が展開されております。

また、「農林水産業・地域の活力創造プラン」では、かつては世界一を誇った日本の水産業の復活が謳われ、浜の活性化や資源管理



ただ今ご紹介を賜わりました大日本水産会の会長白須でございます。また、先ほどは大勢の来賓の先生方から、水産をめぐる情勢が大変厳しい中で、将来の水産業の

祝 辞 (一社)大日本水産会会長 白須 敏朗

心からお喜びを申し上げます。また、先ほどは大勢の来賓の先生方から、水産をめぐる情勢が大変厳しい中で、将来の水産業の発展につながる大変暖かい励ましのお言葉、エールを贈っていただきました。水産業界を代表して誠にありがとうございます。また、先ほどは大勢の来賓の先生方から、水産をめぐる情勢が大変厳しい中で、将来の水産業の

東日本大震災から3年半が経過しました。国の支援、そして大勢の皆様方からの支援に加え、被災地の水産関係者の大変な努力もございまして、震災からの復旧・復興は着実に進んできております。水揚げ、漁船の数も

震災前の水準に近づいております。漁港は、仮設も入れずと概ね9割くらいの漁港において水揚げが可能になっている状況でございます。しかしながら、先ほどもお話がありましたように、大幅に地盤沈下をした施設、敷地の嵩上げの問題や小規模漁港の復興の問題等、まだまだ残された課題が多いわけでございます。私も大日本水産会として、引き続き被災地の復旧・復興に向けてしっかりと支援を続けてまいりたいと考えております。

また、水産業の使命と責任を自覚し、震災からの復旧・復興は着実に進んできております。水揚げ、漁船の数も震災前の水準に近づいております。漁港は、仮設も入れずと概ね9割くらいの漁港において水揚げが可能になっている状況でございます。しかしながら、先ほどもお話がありましたように、大幅に地盤沈下をした施設、敷地の嵩上げの問題や小規模漁港の復興の問題等、まだまだ残された課題が多いわけでございます。私も大日本水産会として、引き続き被災地の復旧・復興に向けてしっかりと支援を続けてまいりたいと考えております。

本日、誠にありがとうございます。また、先ほどは大勢の来賓の先生方から、水産をめぐる情勢が大変厳しい中で、将来の水産業の発展につながる大変暖かい励ましのお言葉、エールを贈っていただきました。水産業界を代表して誠にありがとうございます。また、先ほどは大勢の来賓の先生方から、水産をめぐる情勢が大変厳しい中で、将来の水産業の



国会議員をはじめ、多くの来賓が出席した



祝 辞 漁港漁場漁村整備促進議員連盟会長 衛藤 征士郎

漁港漁場漁村整備促進議員連盟会長、衆議院議員の衛藤征士郎でございます。我が国の水産業を取り巻く環境は極めて厳しいものがあります。水産資源の減少、担い手の減少・高齢化、また魚離れ、魚価の低迷、燃油の高騰など非常に厳しいものがあります。このようななかにあつ

て、今日ご出席の皆様は、漁港・漁場・漁村の振興・発展のために大変なご尽力をされています。心から敬意を表し、感謝、お礼を申し上げます。平成27年度の水産基盤整備にかかる概算要求額は、859億円と対前年度比当初19%増の要求額になっております。国、都道府県、市町村も財政状況には大変厳しいもの

がおりますが、満額確保するべく私も議員としても頑張っております。私どもの議連は、予算の確保や関連法制度の整備、水産の長期計画の策定等に取り組んでまいりました。これからも議員としてしっかりと責任と使命を果たしていく所存でございます。さて、2020年に東京オリンピックがござい

ます。6年後でございます。おそろく2000万人以上の外国のお客様が訪日されると思っております。間違いなく、全国津々浦々の漁港・漁村を視察に行くのであります。私も海外に出ましたら必ず

言っても農山漁村、特に漁村がしっかりと発展していくかというのを、まさに全国の漁港・漁場の関係の皆さん方であり、皆さんのお力があったら、こそ水産業が成り立ち、水産物の安定供給をなし得るわけでございます。これに加えまして沿岸の漁業者の生産、生活の場は漁港であり、漁場であり、さらには漁村、集落であります。皆さんはこれらを支え、地域社会の維持という重要な役割を担っております。も

と、都市ばかりが発展するのは困ります。何とか、都市ばかりが発展するのではなく、漁村も世界一、私どもの

す地方の漁港を見に行きます。そして漁村を視察に行きます。間違いなくその国の漁港・漁村はその国の国力を示す鏡でもあるし、パロメーターでもあります。まさしく漁港・漁場・漁村整備は大事な項目であります。私も6年後の2020年に向けて皆さんとともに、地方創生の元年の平成27年度の予算編成に全力をあげてまいり所存であります。財源がなければことは成りません。元気がよく予算を確保すると言つても、その財源の用意をしなければなりません。本年度の当初予算においては、年金、医療、介護、福祉、子育て等々の社会保障関連予算は30・5兆円でありまして、このような分野に充たされる消費税増税の話もありますが、財源をつくら



1300人の漁港・漁場・漁村関係者が東京に集結した

提案理由説明

兵庫県漁港漁場協会 会長 中田 勝久



ただいまご紹介頂きます火で犠牲となられました兵庫県漁港漁場協会長を務めております、南あわじ市長の中田勝久でございます。

はじめに、今夏の豪雨災害及び9月27日に発生いたしました御嶽山の噴火につきまして、ご挨拶申し上げます。

本日、ご出席の皆さま、火で犠牲となられました兵庫県漁港漁場協会長を務めております、南あわじ市長の中田勝久でございます。

はじめに、今夏の豪雨災害及び9月27日に発生いたしました御嶽山の噴火につきまして、ご挨拶申し上げます。

の皆様にお願いいたします。常日頃水産物の振興と活力ある漁村づくりにご尽力いただいていることに、あらためて敬意と感謝の意を表する次第であります。

提案理由の説明に先立ち、兵庫県と南あわじ市の現状に触れたいと存じます。

兵庫県には、大小五十の漁港があり、北は日本海、南は瀬戸内海、太平洋に囲まれ、長い海岸線と豊かな魚種、漁場に恵まれています。

日本海側では、沖合底びき網、いか釣り、ベニ

シヨンの推進、但馬の魚のブランド化などに取り組んでいるところであります。

本県は、平成7年1月に未曾有の被害があった阪神・淡路大震災を経験いたしました。あれから来年1月には20年を迎えます。その節は全国の皆様方から絶大なご支援をいただきました機会に深く感謝申し上げます。

東日本大震災を経験された皆様も一日も早く復興できますことを衷心より祈念いたします。

次に、「南あわじ市」は、淡路島の最南端部に位置し、恵まれた地理条件と気候条件に加え、高い技術を生かして、タマネギ・レタス・白菜・キヤベツ等、三毛作が営ま

ております。全国の皆さまに南あわじ産品の良さを実感いただき、南あわじブランドになっていただくよう、来年3月21日のオープンを目指して官民一体となって取り組んでおります。

このような状況などを踏まえ、付議議案「漁港・漁場・漁村・海岸整備促進に関する件」について、提案理由を説明いたします。

我が国の水産業、漁村を取りまく環境は、水産資源の減少、漁業の担い手の減少・高齢化など、更に、燃油価格の高騰、消費量や魚価の低迷なども加わり、一段と厳しくなっております。

また、東日本大震災被災地の復興・復興の加速化や、南海トラフを始め

といた大規模な地震・津波の発生への懸念に加え、これまで経験したことのない台風、集中豪雨等による災害も多発しており、人命を第一とした災害に強い、漁港・漁村づくりが急がれております。

併せて、安全・安心な水産物を将来にわたって国民に安定的に供給して消費拡大を図るとともに、世界的な水産物需要の高まりを捉え、世界に冠たる日本の水産物の輸出拡大を図っていかねばなりません。

そのために我々は、水域環境の保全や漁場の整備による水産資源回復対策、漁港などの高度衛生管理対策、安定的な生産を確保する漁港・漁村の防災・減災対策や長寿命

位置する地域では、今後30年以内に70%程度の確率で発生すると予想されている南海トラフ地震で、大きな被害を受けることが想定されております。

すくも湾漁協が拠点とが営まれてきました。豊後水道の入り口に位置し、黒潮の影響も大きく受けることから、イワシ、アジ、サバ、キヒナゴなどの宝庫となっており、これら豊かな水産資源に支えられ今日まで受け継がれてきています。

現在、高知県をはじめ古くから多種多様な漁業が営まれてきました。

増殖場構想」の推進や河川改修で発生した砂を利川した漁場の造成等を行っており、漁業者が豊かな海づくりの一環として実施している海底耕耘や二枚貝の放流など干潟や浅場を守る取組への支援も行っていきます。

一方、日本海では、国営事業によるスワイカニ保護礁の設置、県営事業によるアカガレイ等を対象とした増殖場の整備を進め、水産資源を増やし育てるための漁場整備を積極的に行っていきます。

また、水産物の消費拡大についても、漁業団体と行政が連携して、「コブコウベ」との提携による県産水産物の販売促進、首都圏へのプロモ

ました。最近では釣り餌として販売するなど漁業として取り組み始めた青年部員もおり、藻場造成活動と漁業との両立ができております。更に、鹿屋農業高校と連携して堆肥として活用する取組も行っております。

また、駆除生物の有効活用も併せて、地元漁業者の収入増につながるような藻場造成活動として昨年度からヒジキの増殖活動にも取り組んでいきます。

私達は、磯焼け問題を逆手にとって、若者(後継者)との交流の場の提供やウニの有効活用の方策を考えました。豊かな里海をつくるという目標は、単に藻場を再生することではなく、未来の子供たちに受け継がれる資源をどのように育て

化対策及び「浜の活力再生プラン」の策定や、水産物、豊かな自然等々な地域資源を活用した漁村の活性化のための活動に意欲的に取り組んでいくところであります。

こうした取組みが、津々浦々で多彩に展開されるためには、国全体の力強い支援が必要です。

このため、

一、水産物の消費拡大と輸出拡大に資する漁港の高度衛生管理対策

一、漁場整備による豊かな生態系と水産資源の回復対策

一、災害に強い漁港・漁村づくりのための防災・減災対策、長寿命命化対策

一、水産業・漁村の活性化を目指した多面的

すくも湾漁協の水産業BCPへの取り組み

高知県すくも湾漁業協同組合代表理事組合長 浦尻 和伸

取り組み事例紹介 1



浦尻氏

すくも湾漁協が拠点としている宿毛湾は、深い入江となっており、風や波浪の影響が少なく自然条件に恵まれ、古くから多種多様な漁業が営まれてきました。

豊後水道の入り口に位置し、黒潮の影響も大きく受けることから、イワシ、アジ、サバ、キヒナゴなどの宝庫となっており、これら豊かな水産資源に支えられ今日まで受け継がれてきています。

現在、高知県をはじめ古くから多種多様な漁業が営まれてきました。

位置する地域では、今後30年以内に70%程度の確率で発生すると予想されている南海トラフ地震で、大きな被害を受けることが想定されております。

すくも湾漁協が拠点として

している宿毛市から大月町にかけても、最大クラスで震度6強、浸水深は大きいところで15〜20m、第1波到達時間は早いところ5分以内と想定されております。

このため、平成23年に

地震・津波から命を守ることを主とした「地震・津波防災マニュアル」を作成し、防災教育や避難訓練に取り組んでまいりました。

それ以降、職員の防災に対する意識が高まる

中、守った命をつなぐため、生活の再建や水産業の復旧・復興のための対策も重要であると認識し、平成24年度に高知県からの支援のもと「すくも湾漁協水産業BCP」を策定しました。

最近では釣り餌として販売するなど漁業として取り組み始めた青年部員もおり、藻場造成活動と漁業との両立ができております。更に、鹿屋農業高校と連携して堆肥として活用する取組も行っております。

また、駆除生物の有効活用も併せて、地元漁業者の収入増につながるような藻場造成活動として昨年度からヒジキの増殖活動にも取り組んでいきます。

私達は、磯焼け問題を逆手にとって、若者(後継者)との交流の場の提供やウニの有効活用の方策を考えました。豊かな里海をつくるという目標は、単に藻場を再生することではなく、未来の子供たちに受け継がれる資源をどのように育て

う頑張っていきたいと思っております。

しかしながら、近年の漁業生産不振は、漁業資源の問題だけでなく経費の増加、消費嗜好の変化による魚価の低迷、さらには就業者の減少・高齢化といった課題が背景にあります。

今まさに、漁業の転換期を迎えており、多岐にわたった取組みと漁業の再編がなければ、漁村地域の衰退は一層深刻なものになります。

寿都町では、地域の特性を踏まえた将来の漁業生産について、水産業や漁港を含めた地域の将来像や振興策を描き、これを明確なビジョンとして、「寿都地域マリンビジョン」を策定し、さらに実行力を促すために「浜の活力再生プラン」をこの度、策定しました。

豊かな里海を取り戻せ！ 継続することで得られた成果・課題・そして夢

鹿児島県高山漁業協同組合青壮年部 日高 慎一



日高氏

私達は肝付町高山地区で、定置網を中心とした漁業を営んでいますが、以前から磯焼けにより、

漁獲量は年々減少する傾向が続いています。私達は、漁業の衰退の危機を強く感じて2006年より高山漁協青壮年部でウニ駆除活動を始め、現在では水産多面的機能発揮対策事業を利用して藻場造成活動に取り組んでい

ます。

藻場造成活動では、毎月1〜2回のウニ駆除や母藻と種苗の投入を行っています。それを七二タリングで確認しながら順応的に進めています。その中でも、鹿児島水産高校との合同ウニ駆除は、とても活気のある活動となっております。

近年では藻場造成活動の他に駆除生物の有効活用にも取り組んでおり、藻を食べる三角み(ギンタカハマ等)の販売やウニ味噌の試作等を行

ております。全国の皆さまに南あわじ産品の良さを実感いただき、南あわじブランドになっていただくよう、来年3月21日のオープンを目指して官民一体となって取り組んでおります。

このような状況などを踏まえ、付議議案「漁港・漁場・漁村・海岸整備促進に関する件」について、提案理由を説明いたします。

我が国の水産業、漁村を取りまく環境は、水産資源の減少、漁業の担い手の減少・高齢化など、更に、燃油価格の高騰、消費量や魚価の低迷なども加わり、一段と厳しくなっております。

また、東日本大震災被災地の復興・復興の加速化や、南海トラフを始め

また、駆除生物の有効活用も併せて、地元漁業者の収入増につながるような藻場造成活動として昨年度からヒジキの増殖活動にも取り組んでいきます。

私達は、磯焼け問題を逆手にとって、若者(後継者)との交流の場の提供やウニの有効活用の方策を考えました。豊かな里海をつくるという目標は、単に藻場を再生することではなく、未来の子供たちに受け継がれる資源をどのように育て

ました。最近では釣り餌として販売するなど漁業として取り組み始めた青年部員もおり、藻場造成活動と漁業との両立ができております。更に、鹿屋農業高校と連携して堆肥として活用する取組も行っております。

また、駆除生物の有効活用も併せて、地元漁業者の収入増につながるような藻場造成活動として昨年度からヒジキの増殖活動にも取り組んでいきます。

私達は、磯焼け問題を逆手にとって、若者(後継者)との交流の場の提供やウニの有効活用の方策を考えました。豊かな里海をつくるという目標は、単に藻場を再生することではなく、未来の子供たちに受け継がれる資源をどのように育て

う頑張っていきたいと思っております。

しかしながら、近年の漁業生産不振は、漁業資源の問題だけでなく経費の増加、消費嗜好の変化による魚価の低迷、さらには就業者の減少・高齢化といった課題が背景にあります。

今まさに、漁業の転換期を迎えており、多岐にわたった取組みと漁業の再編がなければ、漁村地域の衰退は一層深刻なものになります。

寿都町では、地域の特性を踏まえた将来の漁業生産について、水産業や漁港を含めた地域の将来像や振興策を描き、これを明確なビジョンとして、「寿都地域マリンビジョン」を策定し、さらに実行力を促すために「浜の活力再生プラン」をこの度、策定しました。

取り組み事例紹介 2



日高氏

私達は肝付町高山地区で、定置網を中心とした漁業を営んでいますが、以前から磯焼けにより、

漁獲量は年々減少する傾向が続いています。私達は、漁業の衰退の危機を強く感じて2006年より高山漁協青壮年部でウニ駆除活動を始め、現在では水産多面的機能発揮対策事業を利用して藻場造成活動に取り組んでい

ます。

藻場造成活動では、毎月1〜2回のウニ駆除や母藻と種苗の投入を行っています。それを七二タリングで確認しながら順応的に進めています。その中でも、鹿児島水産高校との合同ウニ駆除は、とても活気のある活動となっております。

近年では藻場造成活動の他に駆除生物の有効活用にも取り組んでおり、藻を食べる三角み(ギンタカハマ等)の販売やウニ味噌の試作等を行

ております。全国の皆さまに南あわじ産品の良さを実感いただき、南あわじブランドになっていただくよう、来年3月21日のオープンを目指して官民一体となって取り組んでおります。

このような状況などを踏まえ、付議議案「漁港・漁場・漁村・海岸整備促進に関する件」について、提案理由を説明いたします。

我が国の水産業、漁村を取りまく環境は、水産資源の減少、漁業の担い手の減少・高齢化など、更に、燃油価格の高騰、消費量や魚価の低迷なども加わり、一段と厳しくなっております。

また、東日本大震災被災地の復興・復興の加速化や、南海トラフを始め

取り組み事例紹介 3



浦尻氏

すくも湾漁協が拠点としている宿毛湾は、深い入江となっており、風や波浪の影響が少なく自然条件に恵まれ、古くから多種多様な漁業が営まれてきました。

豊後水道の入り口に位置し、黒潮の影響も大きく受けることから、イワシ、アジ、サバ、キヒナゴなどの宝庫となっており、これら豊かな水産資源に支えられ今日まで受け継がれてきています。

現在、高知県をはじめ古くから多種多様な漁業が営まれてきました。

位置する地域では、今後30年以内に70%程度の確率で発生すると予想されている南海トラフ地震で、大きな被害を受けることが想定されております。

すくも湾漁協が拠点として

北海道寿都地区地域水産業再生委員会「浜の活力再生プラン」

北海道寿都町漁業協同組合専務理事 木村 親志



木村氏

が約2万人にまで膨らみました。

寿都をニシンの千石場所に押し上げたのは、当地で開発された行成網(現在の定置網)誕生の

歴史が刻まれています。漁業の激動期を迎えた昭和に入り、ニシンが沿岸から姿を消し、代わって沖合漁業へと舵を切った。豊富な水産資源に恵まれた時代や沖合撤退後、沿岸で資源変動に左右されながらも、「育てる漁業」、協業体組織による「資源管理型漁業」を生産して、水産業や漁港を含めた地域の将来像や振興策を描き、これを明確なビジョンとして、「寿都地域マリンビジョン」を策定し、さらに実行力を促すために「浜の活力再生プラン」をこの度、策定しました。

第65回全国漁港漁場大会に祝電・メッセージを下された方々(順不同、敬称略)

自由民主党総裁	安倍 晋三
自由民主党幹事長	谷垣 禎一
民主党代表	海江田 万里
次世代の党党首	平沼 赳夫
衆議院議員	小里 泰弘
衆議院議員	松本 純

出席された国会議員(順不同、敬称略)

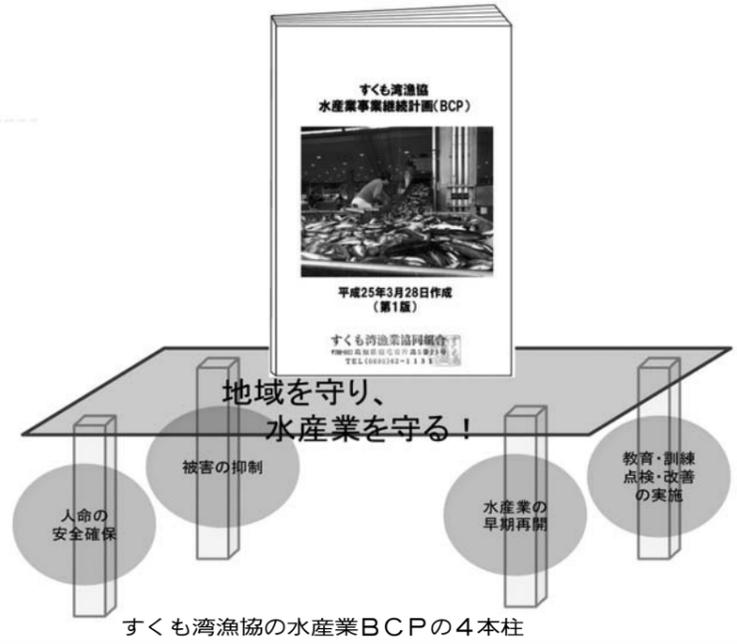
衆議院農林水産委員長	江藤 拓
参議院農林水産委員長	山田 俊男
漁港漁場漁村整備促進議員連盟会長 衆議院議員	衛藤 征士郎
衆議院議員	赤澤 亮正
衆議院議員	遠藤 敬
衆議院議員	加藤 寛治
衆議院議員	金田 勝年
衆議院議員	北村 誠吾
衆議院議員	斎藤 洋明
衆議院議員	鈴木 俊一
衆議院議員	長島 忠美
衆議院議員	宮路 和明
参議院議員	青木 一彦
参議院議員	井原 巧
参議院議員	岩城 光英
参議院議員	江島 潔
参議院議員	紙 智子
参議院議員	北村 経夫
参議院議員	酒井 庸行
参議院議員	高野 光二郎
参議院議員	堂故 茂
参議院議員	長峯 誠
参議院議員	野村 哲郎
参議院議員	藤川 政人
参議院議員	三宅 伸吾
参議院議員	山下 雄平
参議院議員	山田 修路
参議院議員	山本 順三
参議院議員	横山 信一

出席された来賓(省庁など)(順不同、敬称略)

水産庁長官	本川 一善
水産庁漁港漁場整備部長	高吉 晋吾
水産庁漁港漁場整備部計画課長	中泉 昌光
水産庁漁港漁場整備部整備課長	岡 貞行
水産庁漁港漁場整備部防災漁村課長	木島 利通
水産庁漁港漁場整備部防災漁村課水産施設災害対策室長	石井 馨
衆議院調査局農林水産調査室長	奥井 啓史
参議院農林水産委員会調査室長	稲熊 利和
東京都港湾局離島港湾部計画課長	片寄 光彦
東京都産業労働局農林水産部水産課長	中野 卓

出席された来賓(団体)(順不同、敬称略)

(一社)大日本水産会会長	白須 敏朗
漁船保険中央会会長理事	山田 隆義
(一社)マリノフォーラム21代表理事会長	井貫 晴介
(一社)全日本漁港建設協会会長	長野 章
(一財)漁港漁場漁村総合研究所理事長	影山 智将
(一社)漁港漁場新技術研究会会長	橋本 牧
(公財)漁船海難遺児育英会専務理事	鈴木 基之
(一社)漁業情報サービスセンター常務理事	淀江 哲也



すくも湾漁協の水産業BCPの4本柱



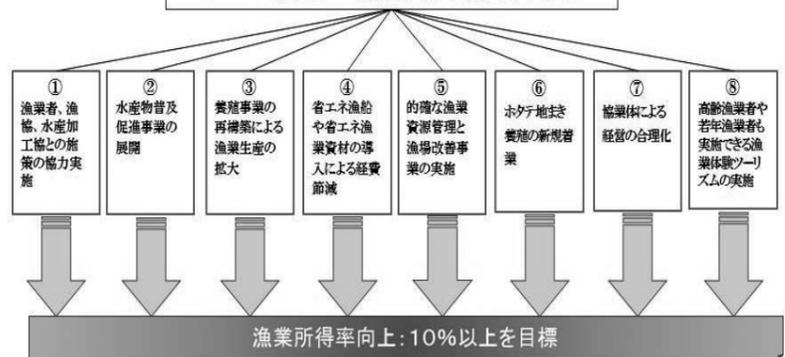
鹿児島県高山漁協青壮年部はウニの駆除活動などを通じ藻場の造成に取り組み、豊かな里海を取り戻しつつある

寿都町「浜の活力再生プラン」:漁村再生プロジェクト

【背景】

- (1) サケ・マス・イカ・ホッケ等の回遊魚の生産が不安定
- (2) ウニ・アワビ等の磯根資源の減少
- (3) 全道でも早い時期から、魚貝類の種苗放流「つくり育てる漁業」を推進、協業体組織による資源管理
- (4) 近年では、サクラマスを始め、ニシンの放流事業を推進
- (5) ウニ・アワビ等の資源の持続的利用を図るため「磯焼け対策事業」や「密漁監視体制」を強化
- (6) ホッケ資源の回復を図るための自主規制

8つの戦略=漁業者の所得向上



代理の方が出席された国会議員(順不同、敬称略)

衆議院議員	麻生 太郎	衆議院議員	西村 康稔
衆議院議員	井林 辰憲	衆議院議員	西銘 恒三郎
衆議院議員	井上 貴博	衆議院議員	額賀 福志郎
衆議院議員	伊東 良孝	衆議院議員	根本 幸典
衆議院議員	伊藤 忠彦	衆議院議員	野田 毅
衆議院議員	石破 茂	衆議院議員	浜田 靖一
衆議院議員	泉原 保二	衆議院議員	林田 彪
衆議院議員	今村 雅弘	衆議院議員	藤井 比早之
衆議院議員	小里 泰弘	衆議院議員	細田 博之
衆議院議員	勝俣 孝明	衆議院議員	三ツ矢 憲生
衆議院議員	金子 万寿夫	衆議院議員	三原 朝彦
衆議院議員	金子 恭之	衆議院議員	宮腰 光寛
衆議院議員	亀岡 偉民	衆議院議員	森 英介
衆議院議員	川田 隆	衆議院議員	保岡 興治
衆議院議員	神田 憲次	衆議院議員	山本 公一
衆議院議員	木村 太郎	衆議院議員	山本 幸三
衆議院議員	岸 信夫	衆議院議員	山本 有二
衆議院議員	國場 幸之助	衆議院議員	湯川 一行
衆議院議員	坂本 剛二	参議院議員	石井 準一
衆議院議員	桜井 宏	参議院議員	石井 浩郎
衆議院議員	清水 誠一	参議院議員	大家 敏志
衆議院議員	末吉 光徳	参議院議員	金子 原二郎
衆議院議員	高鳥 修一	参議院議員	熊谷 大
衆議院議員	竹下 亘	参議院議員	島田 三郎
衆議院議員	武井 俊輔	参議院議員	鶴保 庸介
衆議院議員	武田 良太	参議院議員	中泉 裕司
衆議院議員	津島 淳	参議院議員	中西 祐介
衆議院議員	富樫 博之	参議院議員	長谷川 岳
衆議院議員	富岡 勉	参議院議員	林 芳正
衆議院議員	中川 郁子	参議院議員	舞立 昇治
衆議院議員	中村 裕之	参議院議員	牧野 たかお
衆議院議員	西川 京子	参議院議員	松山 政司
衆議院議員	西村 明宏	参議院議員	吉川 ゆうみ

漁船海難遺児育英会

多くの参加者が募金

全国漁港漁場大会では、「漁船海難遺児育英募金」活動が恒例となっている。

今大会においても（公財）漁船海難遺児育英会が鈴木基之専務理事を先頭に、大会会場において募金活動を行った。多くの参加者が募金活動に答え、大会が始まる頃には多くの参加者が胸に「水色の羽」を付けていた。

募金を呼びかける職員ら。募金した人には、「水色の羽根」を配った



(一社)漁港漁場新技術研究会 会員による展示



多くの漁港・漁場・漁村関係者が足を止めて、展示に見入ったり、質問するなどしていた



会場入り口風景



フォトスケッチ



パネルなどを使った展示の様子

2014 漁港漁場漁村海岸写真コンクール

入賞作品決定!

(公社) 全国漁港漁場協会と
 全国漁港海岸防災協会の共催、
 (一財) 漁港漁場漁村総合研究
 所と(一社) 水産土木建設技術
 センターの協賛、水産庁後援に
 よる2014漁港漁場漁村海岸
 写真コンクールの入賞作品が、
 第65回全国漁港漁場大会の場
 で発表された。

入賞作品は、特選1席(農林
 水産大臣賞)1点、特選2席(水
 産庁長官賞)1点、特選3席(全
 国漁港漁場協会会長賞、全国漁港
 海岸防災協会会長賞、漁港漁場漁
 村総合研究所理事長賞、水産土
 木建設技術センター理事長賞)
 各1点、入選5点、佳作10点で、
 入賞者は別表の通り。
 なお、入賞作品は全国漁港漁
 場協会のホームページに掲載し
 ています。

2014漁港漁場漁村海岸写真コンクール入賞者一覧

入賞	題名	氏名
特選1席	だんらん	山本 幸平(三重県志摩町)
特選2席	網の手入する日	坂本 義治(東京都足立区)
特選3席	群舞	滝沢 康幸(長野県須坂市)
特選3席	カツオ節の天日干し	佐藤 榮利(静岡県西伊豆町)
特選3席	白波立てて	乗松 賢二(愛媛県松山市)
特選3席	潮騒	門林 泰志郎(福島県いわき市)
入選	神馬疾走	小栗山 秀男(千葉県九十九里町)
入選	瀬戸内のめぐみ	吉田 勝三(山口県下松市)
入選	観客を乗せて	小野 正宏(群馬県沼田市)
入選	磯街道の曲線美	野元 健作(鹿児島県鹿児島市)
入選	老婦の愉しみ	浜口 正雄(三重県志摩市)
佳作	漁師の宝物	大藪 俊行(東京都北区)
佳作	カモメを従えて走る漁船	玉田 美佐緒(滋賀県近江八幡市)
佳作	お先に失礼	太田 誠二(新潟県新潟市)
佳作	スタートダッシュ	家城 洋之(静岡県焼津市)
佳作	たまりすくい	三ツ井 道代(静岡県掛川市)
佳作	大海を独り占め	斎藤 孝子(岡山県岡山市)
佳作	季節の贈り物	福田 修逸(青森県蓬田村)
佳作	"捕まえたぞー"	川崎 信義(長崎県佐世保市)
佳作	海の幸を求めて	稲葉 太一郎(奈良県生駒市)
佳作	和布刈神事	松井 浩美(京都府長岡京市)



特選1席

農林水産大臣賞



特選2席

水産庁長官賞



特選3席

全国漁港漁場協会会長賞



特選3席

漁港漁場漁村総合研究所理事長賞

特選3席

水産土木建設技術センター理事長賞



特選3席

全国漁港海岸防災協会会長賞



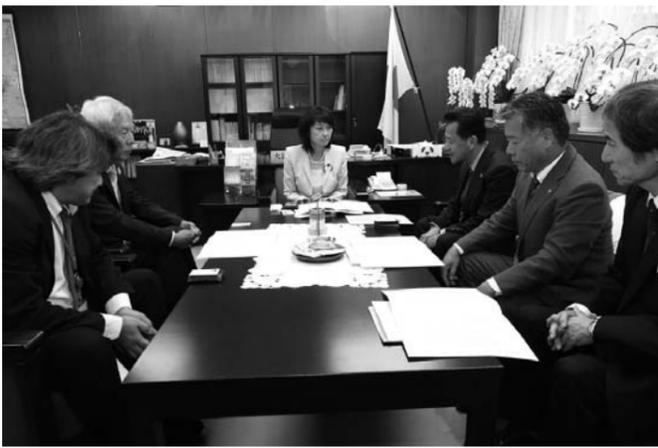
全国漁港漁場大会決議の要請行動

財務省、農水省、国交省等に要請

第65回大会終了後、各県協会代表者は大会決議の実現をはかるため、要請行動を実施した。

要請行動は、各省庁への要請を行う「合同要請」(今年度の幹事県を中心に3班編成)と都道府県漁港漁場協会が地元選出国会議員に要請を行う「個別要請」に分かれて行った(合同要請参加県は合同要請終了後に地元選出国議員に要請)。

財務省では、山口県漁港漁場協会の野村興児会長(秋市長)、佐藤裕志常務理事(山口県漁港漁場整備課長)、宮城県漁港漁場協会の亀山紘会長(石巻市長)、松平清常務理事(宮城県水産業基盤整備課長)及び田中潤児会長ら12名が、田中一



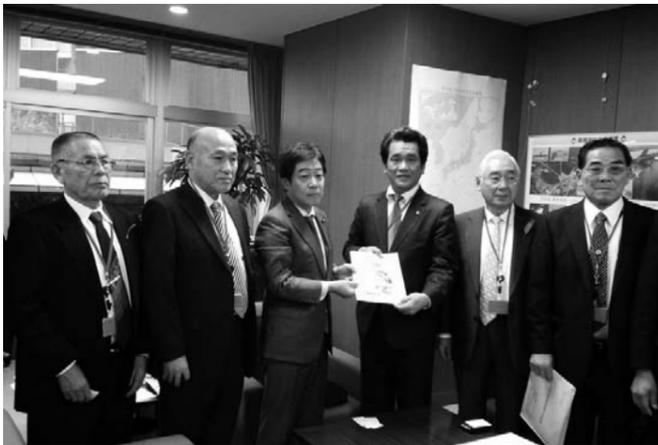
中川郁子農林水産大臣政務官に要請



田中一穂財務省主計局長に要請



高村泰夫財務省主計局主計官に要請



青木一彦国土交通大臣政務官に要請

穂主計局長に要請するとともに、高村泰夫主計官(農林水産係担当)に対しては、提言書を手渡しして地元の実情、課題等について説明した。

農林水産省では、佐賀県漁港漁場協会の坂井俊之会長(唐津市長)、田島健一理事(白石町長)、滋賀県水産多面的機能発揮協議会の窪田雄二会長(滋賀県漁連専務理事)、西川忠雄副会長(滋賀県農政水産部水産課長)及び鹿田正一(公社)全国漁港漁場協合理事)ら12名が、中川郁子農林水産大臣政務官、本川一善水産庁長官、高吉晋吾漁港漁場整備部長等に現場の実情等を説明して提言

国土交通省では青木一彦国土交通大臣政務官、彦国土交通大臣政務官、国土政策局の本東信局長、館逸志官房審議官、吉田幸三離島振興課長に面談し、静岡県漁港漁場協会の中野弘道会長(焼津市長)、荒川邦夫副会長(戸田漁協代表理事組合長)、及び山形県漁港

漁港協会の五十嵐安哉副会長(山形県漁協代表理事組合長)ら14名が、提言書を手交し、地元の水産業の再生・漁村の活性化のためには、本提言の実現が不可欠とし実現方を強く要請した。

提言書の要旨は次の通り。

【漁港・漁場・漁村・海岸整備の促進に関する提言】

一、水産物の消費拡大

(一社)全日本漁港建設協会 各研究部会研究課題報告会開催

(一社)全日本漁港建設協会は、11月7日(金)午後4時から東京都内の霞山会館において、各研究部会研究課題報告会を開催した。

この報告会は、全日本漁港建設協会の正会員と賛助会員が共同して調査研究を進めているテーマについて発表するもので、昨年度から開始され、今回が2回目の開催となる。会員や関係者等約60名が参加した。

各研究部会の演題及び発表者は次の通り。

○PC構造避難誘導デッキ技術研究会・漁村総研WG

・津波避難誘導デッキの計画と設計(一財)漁港漁場漁村総合研究所(中村克彦)

○水域環境改善工法調査研究会

・「自立するフリップゲート式防潮流ねor isseの特徴と施工事例のご紹介」(日立造船(株))

・「グラウンドアンカーによる既存岸壁の補強工法」(株エスアイ)

・「海抜0mからの避難誘導灯

・「赤潮・貝毒対策への土木的手法の可能性」(株エコーテック 峰寛明)

・「薄層深掘工法の実績と今後」(大石建設(株) 末永茂則)

○衛生管理型漁港施設研究会

・「衛生管理型漁港の建設事例紹介」(株センク 21 丹羽真)

○維持補修管理研究部会

・「プレキャストコンクリート残置型工法の実施と今後」(丸栄コンクリート工業(株) 三輪啓司)

○サンドパイプ工法研究会準備会

・「ジェットポンプ式サンドパイプ工法」(J・S B工法) (五洋建設(株) 竹原洋一郎)

また、次の研究部会等の報告は長野章会長より行った。



報告会のようす

「自立するフリップゲート式防潮流ねor isseの特徴と施工事例のご紹介」(日立造船(株))

「グラウンドアンカーによる既存岸壁の補強工法」(株エスアイ)

「海抜0mからの避難誘導灯

平成26年度 日本水産工学会 シンポジウム

水産インフラの長寿命化の推進に向けて

日時：平成26年12月6日(土) 13:00~17:00

会場：東京海洋大学 2号館100A教室

主催：日本水産工学会

共催：(独)水産総合研究センター水産工学研究所、(一財)漁港漁場漁村総合研究所、(一社)水産土木建設技術センター、(一社)全日本漁港建設協会、(一社)漁港漁場漁村総合研究所、漁村水環境研究会

後援：水産庁、(公社)全国漁港漁場協会




プログラム

13:00	開会挨拶	日本水産工学会 会長 大竹 臣哉
13:10	開催趣意説明	西崎 孝之 水産庁 西崎 孝之
13:30	漁港施設等の長寿命化について	水産庁 西崎 孝之
13:50	水産基盤施設ストックマネジメントの導入・実践と課題	(一社)水産土木建設技術センター 内山 裕三
14:10	漁港のコンクリート構造物に対する簡易機能診断手法の開発・導入	(独)水産総合研究センター水産工学研究所 金田 拓也
14:30	漁港施設の鋼構造物に関する老朽化診断と保全対策	(一社)漁港漁場漁村総合研究所 吉田 倫夫
14:50	漁港施設の補修・修繕工法の開発・導入	(一社)全日本漁港建設協会 牛田 久喜・三輪 啓司
15:25	漁港施設の機能保全における課題	(一財)漁港漁場漁村総合研究所 伊藤 靖
15:45	漁業集排水処理施設の老朽化診断と対策	(一財)漁港漁場漁村総合研究所 大賀 之雄
16:10	総合討論	座長 三上 信雄
17:00	閉会	日本水産工学会 企画委員会 委員長

参加費：1,000円(会員・非会員)

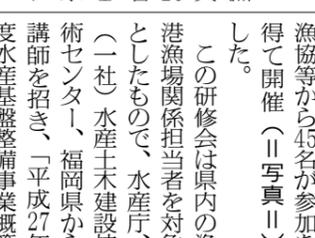
申し込みは、(一社)全日本漁港建設協会 田原宛てに氏名及び所属を11月28日までにEメール(m.tahara@zenkyoken.jp)又はFAX(03-6661-1166)により申し込んでください。

問い合わせ先：(一社)全日本漁港建設協会 尾形、田原 電話 03-6661-1155 Eメール m.tahara@zenkyoken.jp

福岡県漁港漁場協会 漁港漁場関係担当者研修会

(一社)福岡県漁港漁場協会は福岡県水産振興課の協力を得て、平成26年度漁港漁場関係担当者研修会を10月21日午後1時30分から福岡市の「ホテルレガロ福岡」において、県・市町・県漁連・漁協等から45名が参加を得て開催(写真)。

この研修会は県内の漁港漁場関係担当者を対象としたもので、水産庁、(一社)水産土木建設技術センター、福岡県から講師を招き、「平成27年度水産基盤整備事業概算

【内容及び講師】

研修会は午後1時30分から、(一社)福岡県漁港漁場協会の佐藤俊俊会長、福岡県水産振興課の石田祐幸課長の挨拶のあと研修に入り、午後4時30分までの長時間であったが参加者は熱心に聴講していた。

漁港往来

自10月1日 至10月31日

10月8日(水) 出張

高知県漁港漁場協会 事務局長 山本貞夫 氏

10月9日(木) 出張

愛媛県漁港漁場協会 事務局長 若洲博文 氏

全国漁港漁場協会 橋本顧問は熊本県へ

○平成27年度水産基盤整備事業概算要求及び関連事業について…水産庁漁港漁場整備部 西崎孝之課長補佐

○最近の漁港漁場整備の取り組みについて…(一社)水産土木建設技術センター 内山裕三調査研究部長

○福岡県の漁港・漁村の防災・減災対策の現状と今後の方針…福岡県水産振興課漁港整備係 松本隆浩技術主査

熊本県漁港漁場協会が総会

熊本県漁港漁場協会(会長・中村五木天草市長)は、10月8日午後4時から、熊本市の「ホテル熊本テルサ」において、平成26年度通常総会を開催した。

総会は中村会長の挨拶に続き、熊本県熊本農林水産部長(平岡政宏水産局長代読)及び橋本牧(公社)全国漁港漁場協会顧問が来賓祝辞を述べた。

第2回理事会を開催

(公社)全国漁港漁場協会は、10月23日午前11時30分から港区メッセパルクにおいて平成26年度第2回理事会を開催し、平成26年度収支予算の変更、第65回全国漁港漁場大会付議議案、第66回全国漁港漁場大会開催地決定及び前水産庁漁港漁場整備部長の宇賀神義宣氏を理事として本協会の顧問に推薦することについて審議を行い、原案通り承認された。

また、報告事項として、平成26年度(上半期)職務執行状況報告が説明され、原案通り承認された。